

1. はじめに

新西市民病院は、今後の人口減少や少子高齢化、情報技術の発展及び医療ニーズの変化に対応した医療提供体制の構築・地域共生の実現に向けた取り組みの推進が求められることを踏まえ、地域住民の生命と健康を守る、なくてはならない社会インフラとして、そして同時に市民病院として、地域の誇りとなり、愛され、親しまれる病院を目指します。

2. 考え方

(1) 新病院の役割

市街地西部における急性期医療の中心的役割を担い、
住みたくなるまちのシンボルとなる病院

(2) 基本的な考え方



まもる
市民の生命と健康を守る



つなぐ
地域医療と地域社会をつなぐ

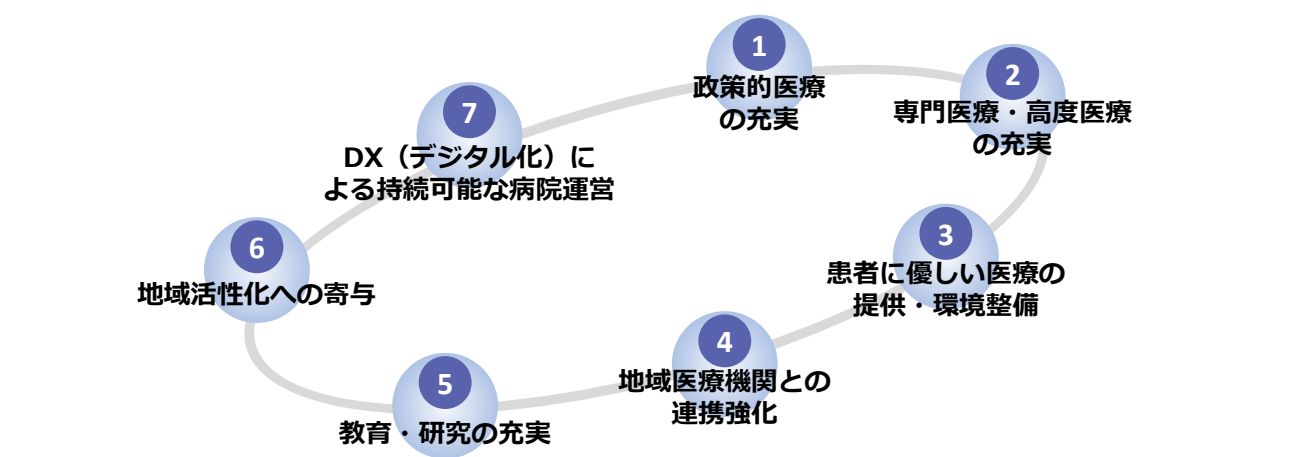


はぐくむ
まちとひとを育む

(3) コンセプト

- ① **救急医療、感染症・災害医療の強化**
 - 市街地西部の救急医療の中心として、救急診療の体制を強化し、より高度な水準の2次救急に対応するとともに、新興感染症や災害時に柔軟に対応できる機能・体制を確保します。
- ② **地域包括ケアシステムの推進**
 - 地域医療機関との連携及び中核病院としての役割を強化し、地域内で診療を受ける割合（受療の完結率）を高めることで、住民に切れ目なく必要な医療を提供し、地域包括ケアシステムにおける急性期医療の中心的役割を担います。
- ③ **まちづくりや地域活性化に寄与**
 - 公共空間との一体的な整備や周辺施設との機能連携により、人々が交流できる憩いの場として、にぎわいのあるまちづくりや地域活性化に寄与します。

(4) 7つの特徴



3. 新病院の機能（抜粋）

(1) 医療提供体制の充実による市民の生命と健康を守る病院

- より高度な水準の2次救急に対応するため、救急診療の体制を強化します。
- 重症化の恐れがある脳血管疾患、心血管疾患への対応を強化し、地域医療機関との連携のもと、救急搬送について市街地西部内での完結を目指します。
- 地域密着型の病院としての役割を持ちつつ、非常時には市全体の3次救急を含む高度急性期医療や感染症医療、災害医療を補完できる病院を目指します。
- 地域で対応できていない放射線治療機器を導入し、地域のがん診療拠点病院を目指します。

(2) 安全で安心な感染症・災害に強い病院

- 新興感染症に対応するための機能・体制を確保するとともに、感染症が流行した際に備え、柔軟に対応できるスペースの確保、動線に配慮した施設を整備します。
- 神戸市災害対応病院として、大規模災害時にも診療機能を継続できるよう地震に強い免震構造を導入し、若松公園との一体的な活用によって地域の災害対応機能を強化します。

(3) 患者・家族及びスタッフ等すべての病院利用者に優しい病院

- すべての病院利用者にとってわかりやすい施設配置とするとともに、ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備、移動負担の軽減に配慮した利便性の高い病院を目指します。
- 重症者など個室が必要な患者さんやプライバシーの確保等に対応するため個室の充実を図り、安心・快適な療養環境を目指します。

(4) 地域医療機関との連携による市街地西部における医療の中核となる病院

- 市街地西部における地域医療連携の拠点として、患者支援センターを整備します。
- 院内だけでなく地域の医療従事者や医療系研修生の学習・研修を支援するため、トレーニングラボなどを整備し、教育・研修の拠点となる病院を目指します。

(5) まちづくりや地域活性化に寄与する病院

- 市街地西部で唯一の総合的な小児・周産期病院として、安心して出産できる医療体制を構築するとともに、病児保育室の運営など子育て環境の向上に寄与します。
- 病院内に雨天時でも子どもが遊べる交流スペースを整備します。また、健康講座の開催など地域住民の健康増進につながる取り組みを行います。

(6) DX（デジタル化）による持続可能な病院運営

- AIやICTの活用により、病院利用者の利便性向上を図ります。
- 医療の業務効率化や医療従事者の働き方改革を推進し、医療ニーズの変化等に柔軟に対応できるスマートホスピタルの実現を目指します。

4. 部門別機能（抜粋）

外来部門

- 自動精算機のほかデジタル問診、診察順番の情報提供などICTを導入し、病院利用者の利便性向上を図ります。
- 感染症及び疑い患者と他の患者の動線及び諸室を分離することで、感染症対応機能の強化を図ります。

病棟部門

- 感染症の発生状況に応じて、段階的に対応諸室を拡張できる運営体制の構築や動線に配慮した施設を整備することで感染症対応機能を強化します。
- 重症者など個室管理が必要な患者やプライバシーの確保等に対応するため、十分な数の個室、面談室を整備し、快適な療養環境を提供します。

救急部門

- より高度な水準の2次救急に対応し、地域医療機関との連携のもと、中等症救急搬送について市街地西部内での完結を目指します。
- 神戸市災害対応病院として行政をはじめ、地域の関係機関と連携するとともに、若松公園との一体的な活用により災害対応機能の強化を図ります。

手術・中央材料部門

- 患者数の増加や診療体制の充実に伴う手術件数の増加など、将来を見据えた手術室数や機能の充実を図ります（現病院の6室から8室程度に拡充）。

小児・周産期部門

- 周産期から小児に関連した救急を充実させ、若い世代とその子ども達が安心できる医療環境を確保し、まちの魅力向上に寄与します。
- 西市民病院で出産したいと思われるように産科診療や分娩の環境を向上させ、魅力ある施設を目指します。

管理部門

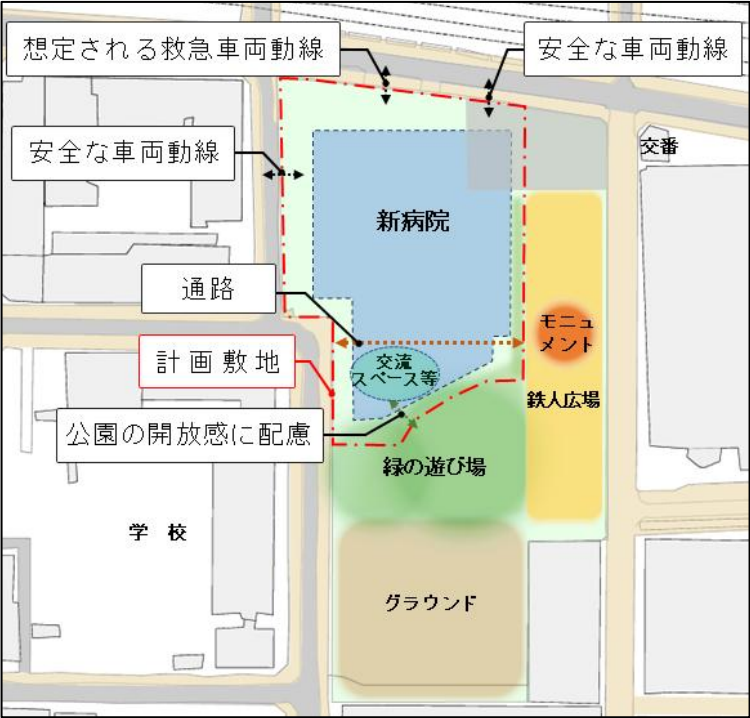
- 医療人材を育成するために、トレーニングラボや学習スペース、Web会議システムをはじめとする各種IT設備等、ソフト・ハードの両面から魅力ある教育環境を整備します。
- 職員用院内保育所の整備など医療従事者が働きやすい環境・仕組みを整備します。

5. 交流機能

- 雨天時でも子どもが遊べる交流スペースを整備し、若松公園と連続性を持った空間として病院利用者だけではなく公園利用者にとっても憩いの場となるスペースを整備します。
- 災害時には公園・病院が一体となって災害対応機能を果たすことを目指した配置計画とします。具体的には、講堂や交流スペースで傷病者の収容やトリアージを行うほか、応援スタッフ等の受入れスペースなどに可変できる設えとし、病院・公園が連携して災害対応可能となるような機能を備えます。

6. 整備概要

- （１）建設場所
若松公園北西部の一部
(神戸市長田区若松町6丁目及び日吉町1丁目)
- （２）病床規模
 - ・358床
(HCU12床、救急病床12床を含む)
 - ・1床あたり約95㎡を確保
- （３）診療科目
 - ・現在の診療科目を維持
(ただし、眼科は、診療を行わず、他の医療機関との連携により対応します。)
 - ・放射線治療科を新設
- （４）駐車場台数
100台程度
(患者・来院者・業務用)



7. 新病院整備スケジュール

- 基本設計完了後、実施設計・建設工事に着手し、令和13年度夏頃の開院を目標に本事業に取り組みます。今後、諸条件によりスケジュールが変更になる場合があります。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
基本設計								
設計施工者選定								
実施設計								
建設工事								
開院準備								開院

8. 概算事業費・事業収支計画

- 【概算事業費】
 - 近年の社会情勢による建築費用の高騰を見込み、605億円程度を見込んでいます。今後も情勢の変化を注視しながら設計段階において更に精査するとともに、事業費の抑制に努めます。
- 【事業収支計画】
 - コスト縮減・工期短縮が期待できる実施設計DB（デザインビルド）の採用等により経費削減に取り組むとともに、医療提供体制の充実を図ることで、効率的な新病院の整備・持続可能な病院運営に努め、開院7年目の単年度収支黒字を目指します。